


# トラック運送事業の 長時間労働改善に向けた パイロット事業 (第二事業)

トラック輸送における取引環境・労働時間改善  
福島県協議会

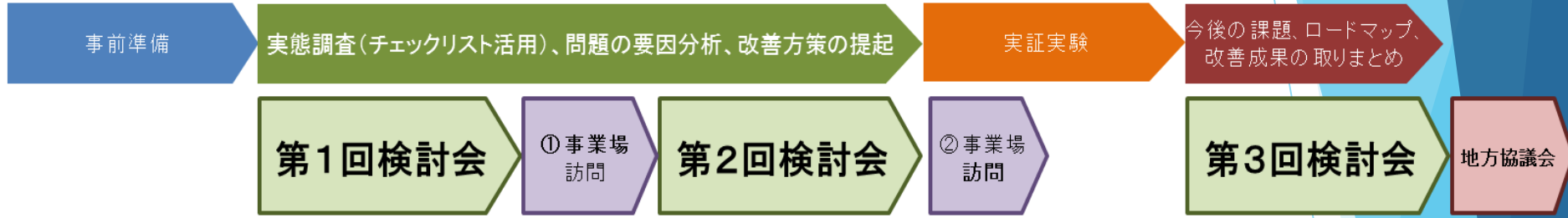
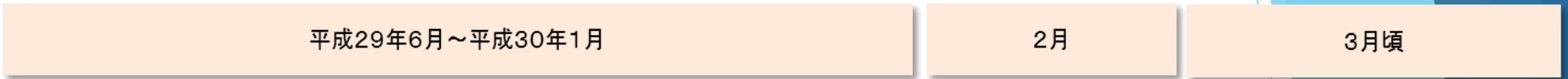
# パイロット事業実施集団の概要

区分	実施集団の名称	事業概要	輸送品目
発荷主	アサヒビール株式会社 福島工場（本宮市）	東京都に本社を置く大手 ビールメーカー	軽工業品 (酒：飲料)  
元請 運送事業者	アサヒロジ株式会社 北海道東北支社福島支店（本宮市）	東京都に本社を置く荷主の 物流子会社	
実（下請） 運送事業者	エービーカーゴ東日本株式会社 福島営業所（郡山市）	福島県に本社置く運送会社 元請運送事業者のパートナー 企業として、輸送作業を担当	
着荷主	【非公表】	仙台市の酒類・食品・関連 消費財にわたる卸売業等	
委託 コンサル	日本PMIコンサルティング株式会社		
事業区分	全日本トラック協会事業（平成29年度福島県協議会第二事業）		



# 1 本業務の作業フロー

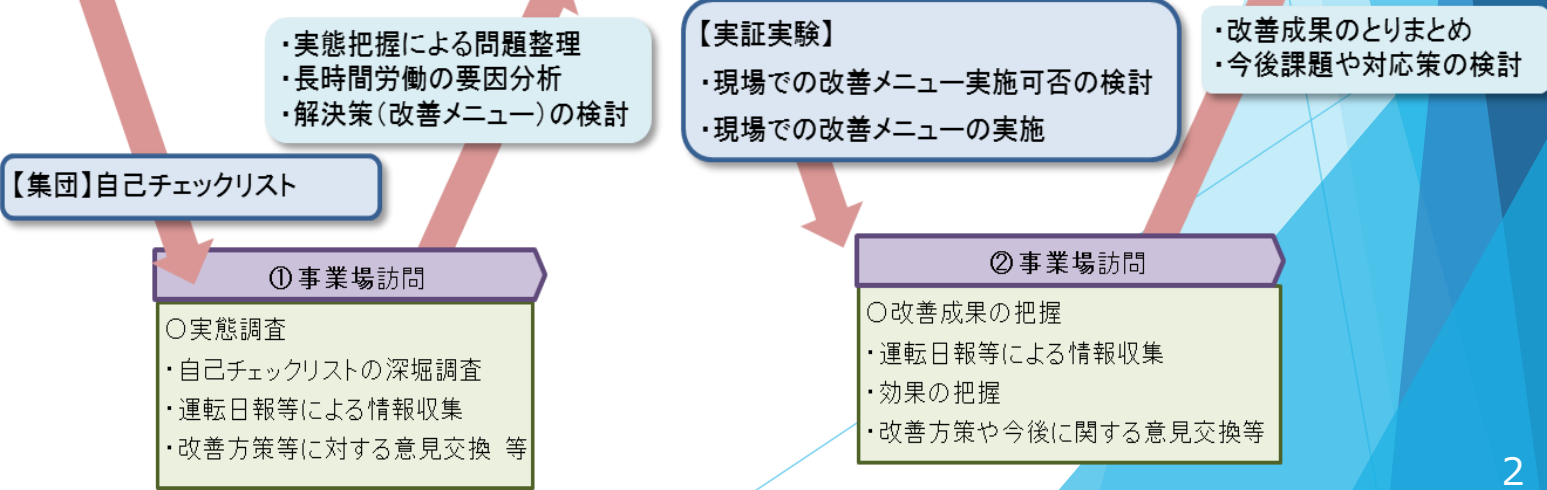
○ 本業務の作業フローは以下の通りである。



- 実態の概略把握
- ・パイロット事業の進め方
- ・質疑応答
- ・スケジュール調整
- ・守秘義務契約の説明
- ・改善取組状況のヒアリング

- 改善方策の提起
- ・現場実態の共有化
- ・問題・課題の共有化
- ・改善方策の提起と意見交換
- ・取組スケジュール
- ・取組の役割分担

- 改善成果のまとめ
- ・報告書案について意見交換
- ・今後の課題、ロードマップの検討
- ・アンケート調査票の配布 他



## 2 検討会、事業場訪問の概要

### 会議の実施状況

回数	検討内容	留意点	実施予定時期
第1回 検討会	1. 事業の進め方についての合意形成 2. 今後のスケジュール 3. 質疑応答	○ 第1回事業場訪問における詳細な実態把握に向けて、下地を整えるイメージ	平成29年 6月15日
第2回 検討会	1. 現場実態の共有化 2. 問題・課題の共有化 3. 改善方策の提起と意見交換	○ 第1回事業場訪問による実態調査を踏まえ、実態把握、問題・課題を分析し、改善に向けた取組方策を検討	平成29年 7月13日
第3回 検討会	1. 事業の実施状況の共有化 2. 改善成果の共有化と意見交換	○ 事業の実施状況と、改善成果の共有化を踏まえた意見交換を実施	平成30年 1月25日 2月19日(予定)

### 事業場訪問の実施状況

第1回 事業場 訪問	1. 詳細な実態調査 2. 附带作業内容の現場視察 3. 改善方策等に関する意見交換 4. 積込み・取卸し現場の視察 等	○実証実験の実施に向けて、実態把握に向けた調査を実施する。実態調査結果を踏まえ、問題及びその原因を分析し、有効な対応策を検討 ○2日間にわたり現場訪問を実施	平成29年7月 5日(着荷主) 7日(発荷主)
第2回 事業場 訪問	1. 実施に向けた調整・打合せ	○ 実証実験の取組に向けた打合せを実施(3回実施)	平成29年 9月8・15日 12月7日

- 9月 8日 訪問場所：着荷主  
内容：パイロット事業の方向性、具体的な取組内容
- 9月15日 訪問場所：発荷主本社  
内容：福島工場での取組内容についての打合せ、ヒアリング調査
- 12月17日 訪問場所：発荷主本社  
内容：福島工場での取組内容についての打合せ、ヒアリング調査

### 3 現状の実態を踏まえた問題・課題の整理

○ヒアリング調査結果を踏まえ、以下のように「出発前の積み込み作業」「輸送業務」、「到着後の取卸し作業」の3つのポイントから検討する。

#### 類型

#### ヒアリングによる実態把握

出発前の  
積み込み作業等

- 福島工場での積み込み作業は、22時頃より6時頃まで実施されている。本パイロット事業対象の仙台方面への積み込みは1時前後に開始。
- 積み込みが多くなる場合には、待機時間が発生するケースがあるが、入門時間管理がなされているが、繁忙期の物量が増加する時期には、待機時間が長時間化する傾向にある。
- 積み込み作業は、車両を移動させずに、複数の倉庫から積み荷をフォークリフトで集め、積載する。そのため、アイテム数が多くなると、積み込み作業時間が長時間化するケースがある。

輸送業務

- 福島から仙台までの運行であるため、運行時間は短いことから、運行については問題となっていない。
- 運行においては改善基準が遵守されている。

到着後の  
取卸し作業等

- 入門後、受付時間順でバース接車許可がなされているため、待機時間が発生している。取卸作業後の運行があるため、早朝1番の取卸しを目標とすることから、早朝5時には受付している。
- 着荷主では、受付時間帯により、待機時間に長短がある。

# 4 パイロット事業の方向性

	方向性	実態→課題	取組方策
方向性 1	【発荷主】 待機時間の 縮減	<p>【実態】物量により、伝票手渡しからバース接車までの待機時間が発生している。</p> <p>【課題】車両が集中する時間帯に待機時間が発生するため、車両を分散化する。また構内滞留車両が多い場合には接車バースの変更等も実施する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○入門コントロールの徹底。</li> <li>○欠品待ち車両への対応</li> <li>○物量による柔軟な接車バースの変更（構内滞留車両の分散化）</li> </ul>
方向性 2	【発荷主】 積込み作業 時間の縮減	<p>【実態】多品種少量品のピッキング品の事前準備ができていない。またピッキング作業員の作業能力を超えているため、作業遅延が発生。</p> <p>【課題】事前に荷揃いし、積込みバース付近に保管することで、速やかに積込みする必要がある。さらにピッキング作業員の作業効率を上げるために、無駄な作業を見直す必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○希少品は、事前に荷揃い作業を実施</li> <li>○積込み場所近くに、予め保管し移動距離を縮減</li> <li>○ギフト検品廃止など、ピッキング作業の効率化を実施</li> </ul>
方向性 3	【着荷主】 待機時間の 縮減	<p>【実態】受付時間順でバース接車の許可がなされているため、待機時間が発生している。</p> <p>【課題】バース接車に際して待機時間を縮減するため、時間指定制等のバース接車ルールを導入する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○受付後のバース接車ルールを見直し、バース貸切又は予約制を導入、バース接車時間のコントロールを図る</li> <li>○上記が困難であれば、時間帯別の待機時間の情報提供により、待機時間が短い時間帯の情報共有化による入門時間のコントロールの実施</li> </ul>

## 5 パイロット事業の取組内容

**【発荷主】以下の取組を実施し、待機時間及び積込み作業時間の縮減を図った**  
(平成29年11月 ~ )

### 取組①：積込み前の待機時間の縮減

- 入門時間のコントロールがなされているが、貨物の増減に応じたきめ細かい入門コントロールを実施  
欠品待ち車両の調整、構内作業の遅延情報に基づく入門時間の連絡等を実施
- 前の車両の積込み時間が長時間化すると、影響を受けるため、積込時間を短縮化する必要性  
(取組②と連動)

### 取組②：積込みに係る作業時間の縮減

- 希少品については予め荷揃いしておき、荷揃い作業のリードタイムを削減
- 積込み場所近くに、予め保管し移動距離を縮減
- ギフト検品廃止など、ピッキング作業員の作業効率化を最大化するために、作業内容を見直し

**【着荷主】今回、着荷主と実証実験実施に向けた調整を実施したが、倉庫内作業の委託業者を変更し、構内作業能力が安定していないことから、実証実験は見送りされた。**

# 6 パイロット事業の取組結果

## 取組前

区分	22	23	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	時間
点検・移動	█	█																	0:30
待機		█	█					█	█	█	█								3:00
積込			█	█															1:15
運転				█	█	█	█	█	█	█									4:00
取卸										█	█								1:00
合計時間																		9:45	

## 取組後

区分	22	23	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	時間
点検				█															0:30
待機時間				█	█					█	█	█							2:30
積込				█	█														0:45
運転					█	█	█	█	█	█									4:00
取卸										█	█								1:00
合計時間																		8:45	

### 取組前

【発荷主側での縮減】

- 待機時間：平均 4 5 分
- 積込時間：平均 7 5 分



### 取組後

【発荷主側での縮減】

- 待機時間：平均 1 5 分 (▲ 3 0 分縮減)
- 積込時間：平均 4 5 分 (▲ 3 0 分縮減)



## 7 今後の課題

- 仕組改革を行い、生産性改善を実施したあとは、仕組改革を継続的に見直し、作業を担う「人」を育成し、生産性を向上させる必要がある。
- バースで車両対応しないリフトマンは、他のリフトマンの応援に入るなど、全体のリフトマンが一つのチームとして機能させ、常時サポートするマインド形成、さらにサポートし合うためのリーダーの設置などの取組が必要である。
- 着荷主における待機時間縮減に向けた検討については、今後も引き続き着荷主との話し合いを継続し、待機時間縮減に向けた取組を実施する必要がある。

